



飛躍の年度を迎えて

學長 金城重明

科一五二名計三五二名の新入生を心から歓迎し、御父兄皆様に御祝辭を申し上げます。本年は受験生が最も多く、諸君は七〇〇余名の中から厳正に選り抜かれた一人一人であり、その重みを深く認識して頂きたい。

本短大は一九五七年四月九日、沖繩キリスト教団（現在は日本キリスト教団沖繩地区）によって創設され、今年に創立一九周年を迎える事になり、来年が成人式と言うことになる。本学はキリスト教精神に基いて高等教育を行う、油縄に於ける唯一の大学であり、油縄教区立として教会との関係は深い。

本年は学校の発展を期するため、並びに大学で学ぶ事を志している多くの若人達のニードに応えるべく、学生増を計り、教授陣の強化をした。建築中の三号館は完成し、更に本年は、首里教会の信徒金城文字さんと御令息の盛啓氏が提供された石嶺の土地（現校地の三倍）に新校舎の建築をする計

聖書に「求めよ、そうすれば与えられるであらう。……門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであらう」とある様に、諸君に提供されたたとえ無いこのチャンスをお逃がす事なく、学問、人生、信仰等の問題、或はその他どの様な問題でも良い、それ等を携えて、先生方に真剣にぶつかって欲しい。チャレンジして欲しい。大学の教師は、完成された百科辞典的存在ではない。学生と共に学び、共に生きんとする、自己形成の過程にある人間に過ぎない。

本学に於いては、知識技術の獲得だけが求められてはならない。尊い人格としての触れ合い、交わりを作って欲しい。トータルな人間としての自己形成の中に、知識の修得が考えられないと、大学で学んでいる事の意味の喪失が起つて来る事は必至である。

諸君は夢と理想に燃えて大学に入学したと思う。然し当初の夢が破れる時が来る。だからと言って失望してはならない。夢が破れる

一般教育

大城 実	助教	宗 教
英語科		
下地玄毅	講師	英作文法
保育科		
真栄城隆司	講師	音楽
西村貞雄	〃	絵画製作
照屋敏勝	〃	保育原理
神山美代子	〃	キリスト教
浅野恵美子	〃	発達心理

も、私自身、結局は、「ついうかうかとみんなの口にのぼる」ことに酔いしれていたのではない。結局は、人の目を気にし人の口をおそれてきた。そして甘えてきた。

今気がついてみると、「私」と云うものは、私であって私でない。「偽り」の私を生きてきたのである。その「偽り」の像を喜んだり悲しんだりしていたのである。

とは云っても、私は悟りを開いたのではない。これから「ついうかうかとみんなの口にある」ことを恥じもせず、のためめと生きているのであらう。ただ、「敗北と勝利とを」自分で区別することだけは・・・と考える。

(大城実)

新入生オリエンテーションコンキヤ
ンプについてのアンケートの結果は次の通り出ました。(アンケート総数三〇七 回収率六五%)

一、楽しかったですか
イ、楽しかった(九〇)
ロ、楽しくなかった(九)
ハ、まあまあ(九五)

二、このようなキャンプは有意義だと思いませんか
イ、有意義だと思う(一三五)
ロ、有意義だと思わない(一二二)
ハ、わからない(三〇)

三、このキャンプに何を期待しましたか
イ、学友との交流(一五八)
ロ、教師との交流(九九)
ハ、自然とのふれ合い(八六)
ニ、アカデミックライフに対する指針(三六)

四、このキャンプの目的は達せられたと思いますか
イ、達せられた(五一)
ロ、達せられなかった(二〇)
ハ、まあまあ(一〇八)

五、学生間の交流はうまく行きましたか
イ、うまく行った(七五)
ロ、うまく行かなかった(一四)
ハ、まあまあ(九三)

六、プログラムの組み方はイ、よいと思う(一八)
ロ、よくない(七二)
ハ、まあまあ(七九)

七、どのプログラムが面白かったですか

八、場所はいい所だと思いますか
イ、いいところ（二六〇）
ロ、よくない（〇）
ハ、まあまあ（二四）
九、費用は高いと思いますか
イ、高い（八）
ロ、高くない（二一八）
ハ、まあまあ（四六）
十、このキャンプでは何か得る所
がありましたか
イ、あった（一四〇）
ロ、なかった（九）
ハ、わからない（二六）
その他の意見
食事が悪い。自由時間が少ない。
い。国旗掲揚の必要無い。教師
側の独走気味、集会の時間が長
い。二泊三日は短い。……

編集後記

今編集部は「ギリ短学報のユニ
タスを出そう」ということが、
いつもの編集会議の議題であつた
しかし、今回は経済的な面やそ
の他諸々の問題のために、十一号
—十二号と二号しか出せなかつ
た。その点、編集委員の意図する
学報の特色を出すまでに至らなかつ
たことを残念に思う。

今までに御協力下さつた方々に
感謝し、次期スタッフに御期待を
乞う。

(S)

と言ふ事は、自分の小さな知識と経験で描いていた大学の理想像が崩れたと言ふだけの事であつて、人間の成長の一段階を現わしているのである。子供が懸命になつて積木遊びをする様に、色々な理論や構想をどんどん組み立てては崩して、より高い理論より優れた思想、学問を造り上げて欲しい。「汝自身を知れ」と言つたギリシャの哲学者ソクラテスは、無知の知を以て真の知とした。知るべき事も知らず、全てを知っていると自認する人程無知な人間である。自分の知識の限界を知り、未知の世界の無限な広がりを知つてそこへ主体的に踏み込んで行く者のみが、真に学問をする者であらう。大学は主体的に学問をして行く第一段階、或は基礎に過ぎないのであつて、一生が学びと自己形成のプロセスなのである。

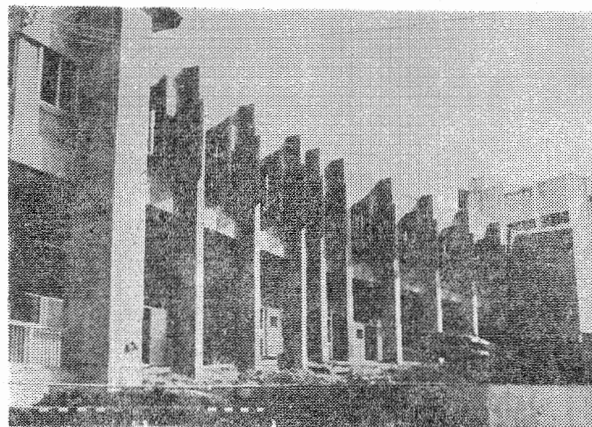
明した。神があると言ふ事も、無いと言ふ事も、理性では不可解である。君は「神はある」にかけるか、或は「神は無い」にかけるか。表か裏か、何れしか出ない。「神はある」にかけて勝つたら、君は凡てを得るのだ。負けても何も失ひはしない。ためらわずに、「神はある」にかけ給えと。人生は一種のかけである。諸君は本短大を選び取った。二ヶ年間を「キリ短」にかけて見ませんか。自分の可能性を精一杯かけて見て下さい。そして永遠の真理の探求に自分をかけて下さい。諸君を大に期待しています。

(四月一日入学式の挨拶より)

三号館校舎完成

(四月一日入学式の挨拶より)

三號館校舍完成



● 新入生の皆さんへ ●
各科の方針・目標

はじめに

本短大一九七六年度は、英語科二〇〇名、保育科一五二名、合計三五二名の新生を迎えた。例年の約二倍である。

三号館も完成した。ラボも増設した。その他の施設も日を追って充実しつつある。

創立二〇年 本年度は、まさに、本短大の飛躍的発展の契機をなすまた一つの歴史的年度になるであろう。

ここに改めて各科の教育方針を述べ、全学生の参考に供したい。

一般教育

主任 漢那 憲治

J・S・ミルが一世紀も前に「職業人になる人間が大学を出るとき身につけていなければならないのは、その職業の専門知識ではなく、専門知識の駆使を指導し、また専門分野における特殊な探求に光を投げかけてくれるような一般教養である。」と大学における一般教育の重要性を力説している。高等教育が普及し、過度の専門化へ進んでいる現在、一般教育の存在意味を真剣に考えてもらいたい。

一般教育の意味は(1)高等教育が文化・社会・技術的な変化と歯車

語を単に授業科目あるいは入試科目の一つとして考え、そのように勉強してきたにちがいない。英語はコミュニケーションの手段であり人間が生きてゆくための必須の道具である、と考えていただきたい。

外国語を理解し正しく使うにはその国民の物の見方、考え方、行動様式をよく知る必要がある。つまりその国の文化を知らなければならぬ。英語の勉強だけでは十分である。旺盛な好奇心をもって幅広い知識を身につけるよう努力しなければならぬ。一つの言葉を学ぶことに、一つの文化を学ぶことなのである。

英語科

科長 比嘉 健次郎

Language is a tool, a means for the communication of ideas (言葉は意図伝達のための道具、手段である。)。ひとりひとりの学生がコミュニケーションのための tool として、英語を駆使できるようにになる、というのが英語科の目標である。殆どの学生は、英

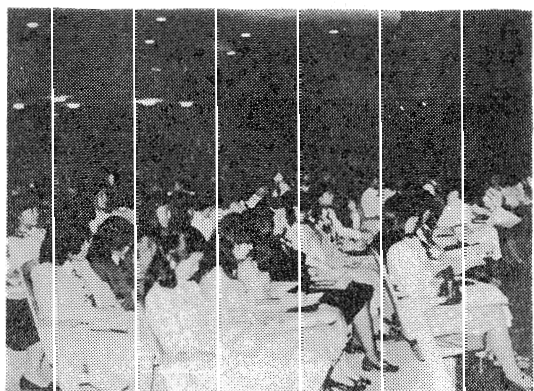
保育科

科長 遠藤 久江

保育科は二年間をとおして、豊かな教養を身につけさせ、更に加えて、乳幼児教育に必要な高い専門職教育をほどこすことにその目標をおいている。

保育科は今年一五三名(留年者一名)の新入生をむかえ、二年生九一名(留年者も含む)を入れた二四四名の学生が在学している。昨年にくらべて八八名の増員となっている。

学生の増員にふあつて教師も三名増員した。学生の増加は学生と教師の接触を意識するとしないとかかわらず少なくなる。そこで学生には自主的な、能動的な態度で学習することが求められる。しかしその前提となるべき学校が学生に提供できる教育プログラム、特に教



科目の設定はほとんど選択の余地がなく、必修科目によって張り付けたようになっていくのが現状である。今年はこの点を根本的に検討し保育科がめざしている目標にむかって、学生の自主的な学習計

宗教委員会

主任 松田 定雄

此の学校に於ける宗教活動の基本的なことから考える時、大きく二つの面から考えたいと思う。その一つは礼拝である。夏季サマーフォークンシップで、比の学校にとって、礼拝は生命線である、との命題が提起された。

礼拝は最も大切なプログラムである。勿論その本質については、創立母体である教会に於て論議されているので、ふれる必要はないと思うが、その内容、形式については、時間・空間の制約の下に背時専門的な分野で検討されなければならないことがらだと理解します。

その一つはキャンパス内に於ける他の諸宗教活動が考えられますが、必ずしも定着しているとは言えません。現時点に於ける委員会の方針は、学生を主体にした、自主活動として位置付けた。したがって、その活動の中心にならべきグループの編成を先づ考えなければならぬが、編成そのものも自主的になされることのがぞましい。

委員会はその二つの面に全面的な協力をしたい。時間をかけて、相互理解が深められるように努力しなければならない。

On Campus

新入生オリエンテーションキャンプ

本年度新入生オリエンテーションキャンプは四月二十二日―二十五日、例年通り渡嘉敷島国立青年の家で行なわれた。碧い海、青い空、美しい自然に囲まれて若さがいっぱい。研究にスポーツに楽しい二泊三日を過ごした。

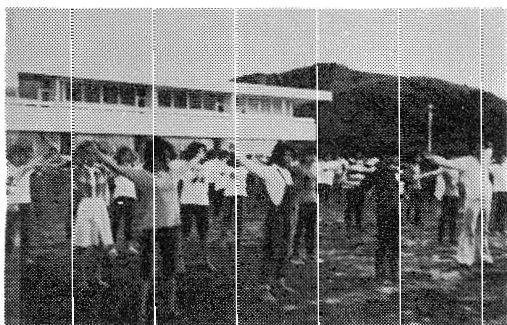
親睦とファイヤーと

英語科 安里 みどり

オリエンテーションキャンプに行く前、友達四人でいらいな計画をたてた。(トランプや花札をやるうとか、幽霊の話をしようとか)そして、船に揺られて渡嘉敷島に到着。私たちは青年の家に一番のりしようにと勢いよく歩き出した。

青年の家について、勝手に見晴らしのいい部屋に荷物を置いて、自分たちの部屋と決めたのも束の間、部屋の割りあては決められていたとのこと(ああ、ショック!!)しかし、保育科と英語科を一緒にして部屋の割りあてをしたのはいいことだったと思う。同じキリ短で学んでいるながら、一緒に授業がほとんどないので、交流が滞りがちである。だからオリエンテーションキャンプという良い機会に保育科の人たちと親睦を深めることができたことは有意義だった。希望としては休憩時間をもっとふやして欲しかった。

今回のキャンプで私はファイヤーの実行委員をすることになってしまった(責任重大!)



ひとつの契機として

保育科 具志堅 玲子

どこまでも続くエメラルドの海、大空の下で、私は何かを得たような気がする。すばらしい自然環境を背景に一日中先生方、友人と行動を共にした数々の思い出。

各科目の内容、重要性など少しづつではあるがわがかりかけた気もする。各プログラムで先生方の学生時代の経験談などを聞いた時思わすふき出した事もあり、又どの先生も皆真剣な眼で、それぞれ自分なりの何かを示唆するべく懸命に努力していた点に心を打たれた。

そして専門科目以外に又以上に人間性を養うためにも必要な一般教養科目とそれに臨むべき態度には、改めて考え直す必要があると思った。又単なる単位修得だけを目標にするのではなくほんとうにその知識を自分のものにする余裕をもちたいと思った。両科集会でのヘルパーの活躍で行なわれた各科の紹介はとても楽しかった。スポーツアワーで思いきり時間いっぱい汗を流して運動をやった事にもまた新鮮さを感じた。そして(キャンパルファイヤー)この時ほど私にとって責任を感じさせられた時はなかった。人をひきつけるのむつかしさ、集団の雰囲気、盛り上りのむつかしさを知った。たった二晩三日ではあったが、多くのふれあいをもつ事ができ、キャンパスに帰ってきた今、もう一度この短大生活を有意義に過ごすための計画を練り直そうと思っているしだいである。

新入生の皆さんへ

学生会長 片岡 勉子



みなさんが入学して早くも一ヶ月余が過ぎました。今一人一人がこの二ヶ月をいかに過ごそうかと思ひめぐらせていることでしょう。

短大生活を充実させるためにはまず健康な体と精神が必要です。毎朝あおの登り坂や階段を踏みしめる度にこのキリ短での生活には体力がなければやっていけないと痛感させられるでしょう。

健康は天恵として、問題に精神面です。毎年五月になると「五月病」がでます。これは特別はっきりした理由はないが、誰とも話したくない、学校に行きたくないなど何かモヤモヤした気持ちがおこってしまうものです。大なり小なり、多くの人がこのような経験をしています。私自身の経験や他の人のことばをきき、原因を考えてみると、次の二つがあげられます。ひとつは、入学する時にあまりに大学に期待をよせて実際に自分かその中で生活すると、何か物足りなく、あてがはずれて、やる気をなくしてしまつたため、もうひとつは逆に「大学生活とは、どうせこんなものだと思つた」と、入る前から何も期待せずにいた人が、そのままそのような生活を続けた結果ますますやる

気をなくしてしまうというようなことが考えられます。いずれにしても、大学生活に不満を抱いているものです。しかし、不満が個人のものとなって、声として表われてきません。ですからよくい内にこもってしまい病的になってしまう。みなさんは不満を不満として認め、それを要求にまで引きあげなければならぬと思ひます。そうすれば五月病も少なくなるのではないのでしょうか。(それが全部とはいえないが)

大学生には二つの機能があると

思います。一、仲間研究と二、人間関係を身につけることであります。これはばらばらに成りたっているものではないと思います。確かに人間の道は厳しいもので、他人のいる余地などないから、人々を求めなければならぬと思ひます。私たちは大学に入った以上、学内において、よい講義を受け、人間関係も成長できる果敢を受納る権利があります。物的にも内的にもこれはあてはまります。ですから自分かどのような状態にあるかを正しくみつめていけるような目をもつことが、大学生活には必要になってきます。

みなさん、二年間はあつという間に過ぎ去ります。大学でなければできないことも数多くあると思ひます。やりたいこと、やらねばならないことを完成させるためにも、みなさんの積極的な取り組みを期待します。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆